

学年	教科等	題材名	日時
第2学年	図画工作科	とろとろえのぐで かく	令和2年1月31日(金) 2校時

# 材料のもつ特徴を造形的な視点で捉えさせる

① 子どもに気付かせたいとろとろ絵の具の特徴を明確にした。(授業前)

指や手で働きかけることで、とろとろ絵の具を使ってできる表現を見つけていく。



② 板段ボールに、自由にかかせることで、とろとろ絵の具を使ってできる表現を見付けさせた。(前時)

手をぐーにして絵の具を垂らすと、おもしろい形ができたよ。水玉模様をつくりたいな。



両手でどンドン広げていこう。色が重なったり混ざったりして変わっていくのがおもしろいな。

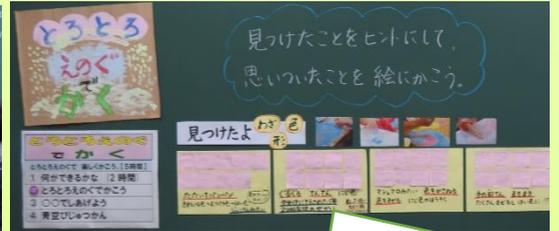


手のひら全体に絵の具をつけてぱちぱちすると、花火みたいになるよ。



③ 材料を造形的な視点で捉えることができるようにするために、導入の工夫を行った。(本時)

前時に見付けた形や色、やってみて気付いたこと等についてふりかえる。指や手の使い次第で多様な表現ができたということを想起させることで、前時の気付きを本時の活動に生かすことができるようにした。



形や色、わざの名前等をまとめた掲示物

# 子どもの造形活動を支える

① 場の設定により、仲間とのかかわりを見出したり、掲示物により学びの足跡を確認できるようにしたりすることで、子どもの発想や構想を促した。(本時)

その色きれいだね。ちよっと使ってもいいかな。



いいよ。青色と黄色を混ぜてつくった色だよ。ぼくのお気に入りだよ。

絵の具入れを共同で使うことで交流が生まれるようにした。



前時の板段ボールを掲示し、発想や構想のヒントとした。

② 子どもの活動を見取り必要に応じて助言した。(本時)

灰色のネズミの王様を大きくかいたよ。大きさの違うネズミもかきたいな。



段ボールをもう1枚つなげてみたらかきやすいと思うよ。

③ デジタルカメラで作品の変遷を記録することで子どもの思考をたどることができるようにした。(本時)

指先でしゅっしゅっしてしたよ。



勢いよく飛ばたくさんの鳥をかいているよ。



10分後

## 授業をふりかえって

- 前時に見付けた「わざ」等を使って、時間いっぱい表現を楽しむことができた。
- 絵をかくことよりも色づくりに夢中になる子どもがいた。かくことに集中できるような場の設定や用具の準備について考える必要がある。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

1 題材指導計画（5時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師のかかわり	具体的な評価規準
生み出す (2)	<p>1 とろとろ絵の具に出会い、活動の見通しをもつ。（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ とろとろ絵の具との出会い</li> </ul> <p>早く触ってみたいな。どんな感じがするのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 形や色等への気付き</li> </ul> <p>横から見ると、絵の具が盛り上がって見えるぞ。</p> <p>青色に緑色が重なったよ。完全に混ざらない感じもきれいだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材のめあて</li> </ul> <p>とろとろえのぐで楽しくかこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の見通し                             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 何ができるかな</li> <li>② とろとろえのぐでかこう</li> <li>③ ○○でしあげよう</li> <li>④ 青空びじゅつかん（鑑賞）</li> </ul> </li> </ul> <p>2 とろとろ絵の具でできることを見付け、全体で共有する。（1時間） （何ができるかな）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見付けたことの共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 液体粘土に絵の具を混ぜ、とろとろ絵の具をつくって見せることで、活動への意欲を高めることができるようにする。</li> <li>○ 青色のとろとろ絵の具を指ですくって垂らし、その上に緑色のとろとろ絵の具を重ねて見せることで、以下の点に着目できるようにする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段々になって盛り上がる形</li> <li>・ 混ざることなく2層に分かれる色</li> </ul> </li> <li>○ 渦巻きをかいて見せ「他にどんなかき方ができるかな。」と問い、やってみたい活動を考えさせる。そうすることで、とろとろ絵の具でできることを見付けるという本時のめあてにつなげることができるようにする。</li> <li>○ 乾いた絵の具の上からクレヨン等がかき足して作品を仕上げることを知らせておくことで、見通しをもって活動することができるようにする。</li> </ul> <p>○ 8～9人で1枚の大きな板段ボールにかかせることで、仲間の様子を参考にしながら活動できるようにする。</p> <p>○ 見付けたことの紹介をとおして、指や手だけで多様な表現ができるということを全体で確認できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 形や色等の造形的な視点をもって、とろとろ絵の具でできることを見付けている。 （知・技）【観察】</li> <li>○ 指や手でかく活動を楽しんでいる。 （態度）【観察】</li> </ul>
本時	<p>3 表したいことを表していく。（1時間） （とろとろえのぐでかこう）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見付けたことを基にした発想や構想（例）</li> </ul> <p>青色と緑色が少し混ざると、海みたいな感じがするよ。伸ばした線の先が分かれていて、くらげの足のような形に見えるよ。</p> <p>指の動かし方を工夫して、くらげの足がゆらゆらゆれている感じを表してみたいな。</p> <p>4 表したいことをかき足す。（1時間） （○○でしあげよう）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時に見付けた形や色、やってみて気付いたこと等についてふりかえることで前時の気付きを本時の活動に生かすことができるようにする。</li> <li>○ 5～6人のグループをつくり、絵の具入れ等を共同で使わせることで、仲間同士の対話を生み出し発想や構想のヒントを得ることができるようにする。</li> </ul> <p>○ 第1時で使用した板段ボールにクレヨン等で試しがきさせることで、乾いたとろとろ絵の具の上からクレヨン等でかくときの感触に慣れさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見付けた形や色等を基に、表したいことを思い付きどのように表すか考えている。 （思・判・表）【観察・作品】</li> </ul>
生かす (1)	<p>5 とろとろ絵の具を使った表現を紹介し合う。（1時間） （青空びじゅつかん）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞カードによる紹介                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見付けたことや思い付いたこと</li> <li>・ 工夫したこと</li> </ul> </li> <li>○ 仲間からのコメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見付けたことや思い付いたこと、工夫したことについて記述させることで、自分なりの見方や感じ方が再確認できるようにする。</li> <li>○ 記述を読ませたうえで、仲間の作品に対するコメントを書かせることで、互いの見方や感じ方、表し方のよさに気付くことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 形や色等造形的な視点を基に、自分の作品を紹介している。（知・技） 【鑑賞カード】</li> </ul>

